

大井所置地ニ埋葬ス

新島海 十月廿九日

立案 明治三十一年
決裁 明治三十一年

掛長



掛

大 野 定



陸軍大臣、申渡案

未上月四日
故樞密院議長公卿伊藤博文英属上院
仗兵善出方可通商而計相成度此昭申渡
也

十月廿九日 行商

英属掛長

幕府掛長



(別紙)

幕府掛長

受

奉

取



上巻案

故後一位大進位公卿河孫坊文國兼國子儀事

陸軍大臣

右ノ通ニ申付ル哉

故後一位大進位公卿河孫坊文國兼國子儀事、際特、近來亦大
一師系騎令一中隊明能六甲隊及第一師團、公号ニ隊隊
辨認令一師系、儀仗ヲ賜フ且分吋吊砲台付注ニ後
為差(讀)後若者、首在記儀中ヲ行ヒ度

一様須賀少者、首在記儀者一太師ヲ、海軍部沙也ニ
指列ニレルト

二、東京到着、各儀仗トシテ中隊長ノ指揮スル近來
騎兵一隊あり附シ極ノ前後ニ隨從セシメ尚東京
府内各所ヨリ三〇一ノ新橋停車場ニ至リ南口官邸
トノ間ニ揃列セシメ且分列ト見十九日各儀仗ノ
コト

故伊藤公園國葬ニ關スル覺書

一、遺骸到着ノ際

一、遺骸横須賀ニ到着、節同地所在將校同相當官埠頭
ニ出迎フコト

横須賀出發、節重砲兵一大隊揃列シテ送ルコト並ニ將校同
相當官停車場ニ見送ルコト

前項揃列部隊ハ横須賀鎮守府司令長官ノ指揮ヲ受ケ
シムルコト

二、横須賀東京間汽車中憲兵將校一、下士以下四隨從護
衛ノコト

三、新橋停車場到着ノ節ハ元帥、對スル儀式ニ準シ左ノ如ク行フコト

一、儀仗トテ近衛騎兵一小隊(中隊長之ヲ指揮ス)ヲ附シ、柩ノ

前後ニ列シ、階陛ノ下

二、在京新橋歩兵三分一停車場ト、靈南坂官邸トノ間ニ堵列スルコト

スルコト

三、日比谷公園ニ於テ、分時吊砲十九發發射ノコト

二、國葬當日

一、國葬ニ當リ、近衛師團歩兵二聯隊騎兵一聯隊野砲兵一聯隊ノ外、特ニ近衛歩兵一聯隊、同騎兵一中隊、同野砲兵一中隊、同軍樂隊ヲ以テ儀仗トスルコト

前記諸隊ノ内其ノ一部ヲ以テ、柩ノ前後ニ列シ、隨從スルニ其

ノ他ハ途上ニ堵列シテ、葬ヲ送ラレムルコト

儀仗兵諸兵指揮官ハ、川村大將トシテ、左ノ幕僚ヲ附スルコト

・ 参謀長 橋本大佐

参謀 長坂中佐 木原大尉

副官 高須少佐 細木大尉

以上ノ外海軍營ヨリモ儀仗兵ヲ出ス

海軍儀仗兵ハ、其ノ儀仗服務ニ関シハ陸軍諸兵指揮官ノ指

揮ヲ受ケシムル豫定

二、野砲兵一中隊ヲシテ、日比谷公園ニ於テ分時吊砲發射ト

三、在京上長官以上ハ勤務等ニ差支ナク限り會葬スルコト

掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛
掛

明治四十五年十月一日

儀仗兵請大指揮官副官 高頭俊次

儀仗係長子爵杉孫七郎殿

来十月四日故公宗討伊藤藤博又國若平儀仗三関下九余令書
王部參考進及返附候也

細木

照

照

照

陸

遊
遊
遊

正徳三年八月五日

長十日日公使館内藤野入園洋新大園不令合書

華新和女子學校

長洲大館大計野實信官 萬興新大

監印三年十月一日



凡崎兵第一隊海軍將校、下士在、名、刺、以、中、三、名、ヲ、午前八時十分、海兵指揮官、
官、計、差、出、文、レ、
十、午前八時十分、備他處、先頭、(西野高門司世道)一、行、

備他處指揮官淺野大將 川村景明

儀仗開之命令

明治四十二年十月一日午後三時

一 十月四日 皇極殿議長 從一位大勳位公卿 藤田文國 葬之日 比谷公
因 於千原行七之列 儀仗員 左 如右 正合之 其他 冠 須 齊 第一回
迎 之 限 八 二

儀仗隊

近衛 諸 隊 由 皇 軍 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊
一 上 隊

儀仗隊

海軍 儀 仗 員 一 隊 海軍 野 砲 中 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊
一 上 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊

諸 隊 中 騎 兵 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊
儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊

儀 仗 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊
儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊 儀 仗 員 一 隊

松洲大レ

三、儀仗隊、行進、諸兵指揮官、示す前、一、旗を白く以て開帳スレ

四、儀仗隊行進間、位置、十一日、官報、旗外、示す、旗列、又右、旗間、巨、旗、

野外、要務、令、規定、振、

五、儀仗隊、日比谷、齋場、到着、後、別、命、待、下、柩、前、在、ル、日比谷、門、

柩、後、在、ル、車、門、入、第、二、回、此、ク、位置、スレ

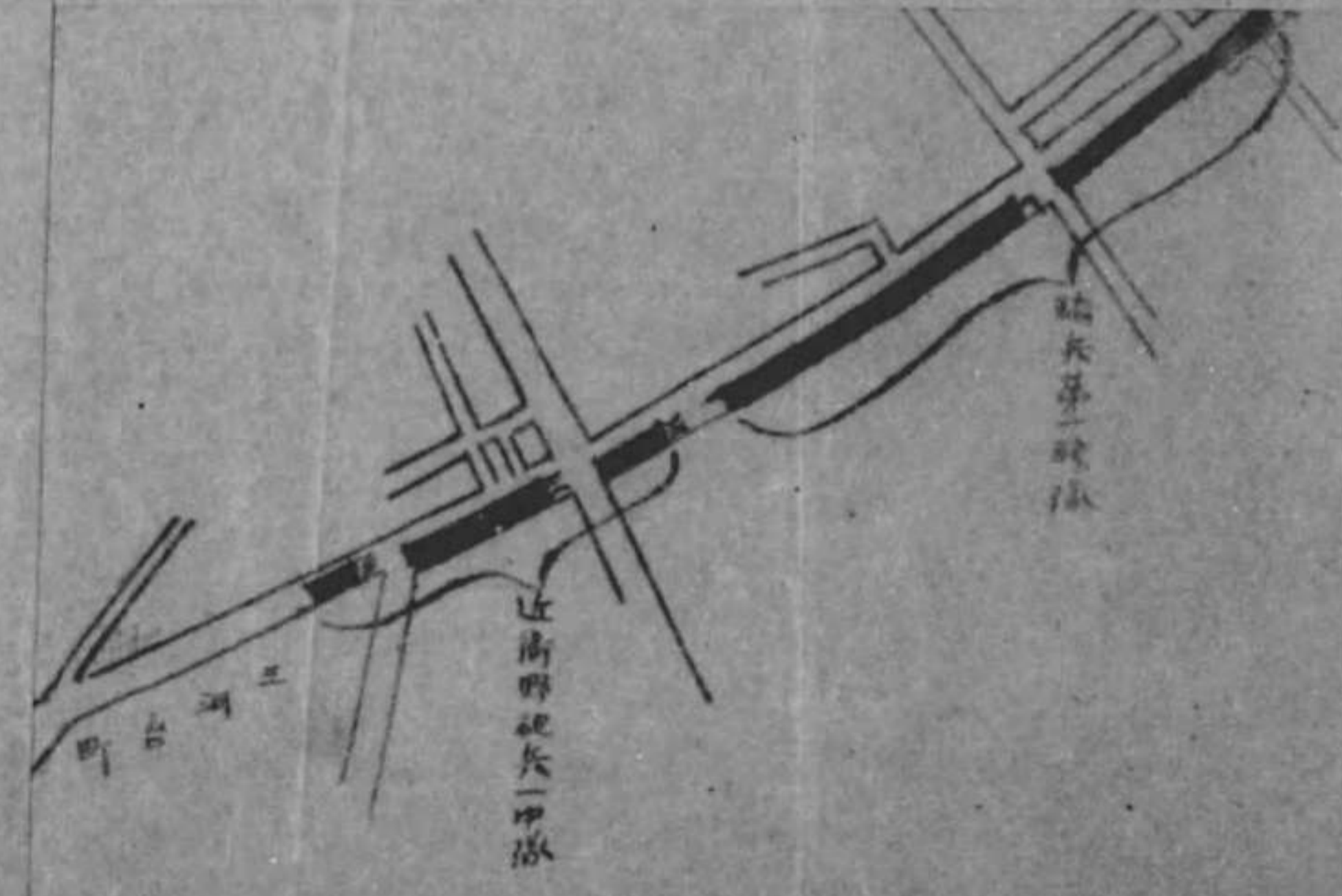
六、右、旗、列、御、隊、此、葬、送、行、列、後、尾、白、己、御、隊、在、翼、ヲ、通、過、シ、テ、後、送、次、御、

マ、

七、儀仗隊、式、後、解散、指示、シ、ハ、第、二、回、示、ス、ル、順、序、に、従、ヒ、順、次、帰、營、ス、

八、陸、軍、諸、隊、服、装、の、軍、装、を、し、規、定、の、喪、章、を、付、シ、其、他、の、儀、隊、の、後、軍、營、に、

洋、塚、ス、



このコマには 図面
表等がありますから下
記の原本をみてください。

請求番号

2A38-5④42

掛長了

別發丙第

七

編

明治四十二年十月一日

東京府成城區外務部参謀長坂研介
華儀係柴田家門殿

故伊藤公爵國葬當日、儀式ニ関シ別紙ノ通り命令
相成候条此般及通牒候也

掛長了
掛長了
掛長了

時文館未出致又通稱院判
右野砲兵中隊、野砲兵一隊、野砲兵一隊、野砲兵一隊

新編野砲兵中隊
東京野砲兵中隊、野砲兵一隊、野砲兵一隊、野砲兵一隊

明治二十三年十月一日

海軍

命令
兩 野砲兵中隊

故樞密院議長從一位大勲位公爵伊藤博文國葬當日
儀式ニ関シテ通リ心得ヘシ
儀仗トシテ近衛師團ヨリ兵一聯隊、近衛騎兵一中隊、
同野砲兵一中隊、同軍樂隊並ニ第一師團ヨリ聯隊長ノ指
揮スル歩兵二聯隊、騎兵一聯隊、野砲兵一聯隊ヲ附セ
テ當該諸隊ニ當日儀仗兵諸兵指揮官川村陸
軍大將ヲ指揮ヲ受ケシムヘシ

陸軍

二、近衛師團ヨリ野砲兵一中隊(四門)ヲ午前八時^{廿分}迄ニ
 設ケ関倉庫内空地ニ派遣シ出棺時ヨリ分時吊砲ヲ
 發射セシムヘシ
 三、葬師團ヨリ騎兵一中隊ヲ附シ葬場祭ヲ終リ埋棺迄ノ
 間棺ノ守護ニ任セシムヘシ
 護衛ニ關シテハ當部副官ノ指揮ヲ受ルヘシ
 四、前諸項ノ規定ニ依リ出場スル軍人ノ服装ハ軍装トシ規
 定ノ喪章ヲ附スヘシ
 五、尤記ノ者ハ勳章持者トシテ午前八時靈南坂官邸ニ
 到リ葬儀係長ノ指示ヲ受ケシムヘシ
 追テ喪章ハ右自ヲシテ準備セシムヘシ

近衛師團

陸軍騎兵大佐	名和長憲
陸軍歩兵中佐	山根一貫
左	杉村勇次郎
左	林二輔
左	黒田善治
陸軍歩兵少佐	國司任七
陸軍砲兵少佐	眞松習吉
陸軍歩兵少佐	大橋博吉
陸軍歩兵大尉	西川上素徳
第一師團	

陸軍歩兵中佐 久松定謀
陸軍歩兵大尉 野村素一
在京在職上長官以上、勤番者若干名、限會葬者

明治四十三年十月三十一日

東京衛戍總督 子爵 川村景明

軍務局 房第三七〇七號

明治四十二年十月三十日

海軍大臣 男 西討 齋藤



故樞密院議長 公爵 伊藤博文 葬儀掛長

子爵 杉 孫 七郎 殿

故樞密院議長 從一位 大勳 位 公爵 西討 伊藤博文 葬

儀ニ関スル件

本件ニ関シ 別紙ノ通 本大臣ヨリ 上奏 裁可ヲ 経タリ

生 考

右通 牒ス

(別紙一葉添フ)

(終)

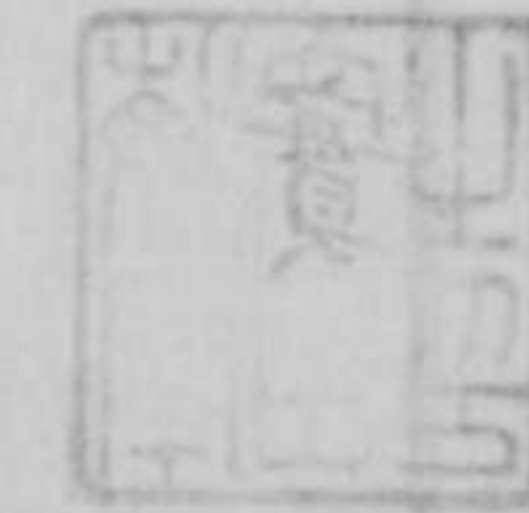
海 軍

海軍

本打... 艦本... 奏... 可... 鐘...

故... 儀仗... 銃隊... 二大隊... 砲隊... 一中隊... 軍樂隊... 一隊... 参...

海軍大臣... 伊藤博文... 奏...



故... 儀仗... 銃隊... 二大隊... 砲隊... 一中隊... 軍樂隊... 一隊... 参... 右葬儀... 當日海軍艦船... 半旗... 泣分... 時砲十九發... 吊禮ヲ施行セシメラル

海軍

掛長

掛



軍第四三九號

明治四十三年十一月一日

海軍省軍務局長 男 西村中溝徳太郎

故枢密院議長公爵伊藤博文葬儀掛柴田家明殿



故伊藤公爵葬儀當日海軍ヨリ差出スル儀仗隊
 中砲隊ハ吊砲奉射ノ爲メ埋葬地ニ近ク
 川青物横町ヨリ埋葬地ニ至ル間ノ道路ノ分岐点ニ
 適宜ノ導標設置方ヲ取計ヲ得度
 右照會ス

(終)

導標設置ニ關シテ手引書

掛札

右取
 海軍次官加藤友三郎
 官房第三七二號
 明治四十二年十月三十日

掛札

掛札

掛札

掛札

官房第三七二號
 明治四十二年十月三十日
 海軍次官 加藤友三郎
 政樞密院議長 兼 伊藤博文 兼 儀掛長
 子爵 杉 孫七郎 殿
 別紙、通横須賀鎮守府司令長官、訓令相
 成彙条及通牒
 (別紙一葉添)

右取
 海軍次官加藤友三郎
 官房第三七二號
 明治四十二年十月三十日

海軍次官加藤友三郎

(四) 第一班 (洗)

海軍大臣男爵齋藤實
新軍大官 賦 蘇 丈 三 瓶
明治四十二年十月二十日

新軍大官 賦 蘇 丈 三 瓶
明治四十二年十月二十日

明治四十二年十月二十日

海軍大臣男爵齋藤實

横須賀鎮守府司令長官男爵上村彦之丞殿

故樞密院議長從一位大勳位公爵伊藤博文葬儀

儀：関スル件

故樞密院議長從一位大勳位公爵伊藤博文、葬儀：
儀仗トシテ銃隊二大隊、砲隊一中隊、軍樂隊一隊ヲ卷
加シ吊砲ヲ施行セシメラレ供條其府、於テ適宜之ヲ編
制シ吊砲十九發發射、準備ヲ為シ葬儀當日即チ
来ル四日七時中、彈所区區段、開海軍者南側
へ派遣方取計ヲヘシ

時刻
表

表

海軍大臣官 藤 實 三 瓶
第四十二年十月三十日

第四十二年十月三十日
海軍大臣男爵齋 藤 實

守府司令長官男爵上村彦之丞殿
議長從位大勳位公爵伊藤博文葬
件
從位大勳位公爵伊藤博文、葬儀、
隊二大隊、砲隊一中隊、軍樂隊一隊、各
行也。マラレ候條其府、於、適宜之、編
入發發射、準備ヲ為シ葬儀當即
於、所、區、霞、閣、海、座、右、南、側、

時刻、分、次、決、定、候、事、同、旨、不、申、候
事、方、此、所、以、取、計、之、由
十月三十日、海軍大臣
齋藤實 謹啟

海軍儀仗隊指揮官ハ本任務中ハ陸軍儀仗隊指揮官
ノ指揮ヲ受ケシムル儀ト心得ヘシ
追テ軍樂隊ハ東京ニ於ケル其府ノ派遣隊ヲ差遣ス
右訓令ス

(終)

明治三十二年十月三日

野間口 海軍省副長

板田故仔存公爵 儀仗隊 附掛 收

官房等三七〇六号ノ三ノ以テ昨日海軍次官ヨリ葬
儀掛本支取通知書由海軍儀仗隊ニ付
毎時大臣ヨリ極須加緊鎮守府同会支取支取訓令
別中末九日レ次成工他ノ箇以三ノ午七時
早五ノト迄入方由支取
右通知ス

海軍

古公質行庫書文奉傳信

四四〇

明治四十二年十一月一日

海軍省軍務局長 甲斐中溝 徳太郎
故松室院議長公爵伊藤博文葬儀掛柴田家門殿

故伊藤公爵葬儀當日海軍ヨリ差出スヘキ儀
仗隊中、砲隊ハ埋葬地ニ於テ吊砲架射致小
ニ付所轄警備寮署、手續ハ出貝方ニ於テ可然
以取計相成度
右為念申進ス

(終)